いきいきチャレンジ

長野県上田市・特定非営利活動法人リベルテ

障害のある人と地域が支えあう防災のかたち

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人リベルテの取り組みを紹介します。

何気ない「自由」と「権利」を尊重しあえる社会を目指す

長野県上田市にある特定非営利活動法人リベルテは、障害のある人たちとともに、表現活動や居場所づくりを行い、何気ない「自由」と「権利」を尊重しあえる社会の実現を目指して活動している。

団体の設立経緯としては、代表理事の武捨和貴氏が知的障害者の通所施設でアート活動を取り入れたプログラムを実践するなかで、障害のある人が集団や就労の枠組みにとらわれず、自分のペースで過ごせる居場所や表現の場が地域に必要だと考え、平成25年にNPO法人を設立し、上田市にある古民家を借りて障害福祉事業所の運営を開始したことが活動の始まりである。

現在は、上田市内に4カ所の拠点をつくり、生活介護と就労継続支援B型事業を行う「スタジオライト」、「1の人100の言葉1000の時間」（各2カ所）のほか、特定相談支援事業の「路地」を運営している。

「スタジオライト」では、アトリエで利用者に対してアート活動を取り入れた個別プログラムを実施し、制作した絵やイラスト、雑貨などの販売を行っている。また、「1の人100の言葉1000の時間」では、法人内の給食事業として利用者の食事づくりを行うとともに、地域の誰もが利用できるコミュニティカフェを運営している。カフェで提供する食事を利用者がつくることにより、一人暮らしをした際に自分でつくれるようになることや、家族のなかで役割をもてることを目指しているという。

さらに、令和3年に文化・交流づくり事業として「路地の開き」というプロジェクトを開始した。同プロジェクトは「福祉施設と地域の境界線を曖昧に」をコンセプトとし、初年度には利用者と地域住民が一緒に拠点の庭づくりを行い、誰もが利用できる公園をつくることにより、地域に開かれた福祉施設として多様な人たちとの出会いや関わりが生まれているという。

災害時に地域と相互に助けあえる関係づくりに取り組む

同法人は、令和6年度のWAM助成を活用し、「アートを介して障害のある人が地域と相互に助け合える関係づくり事業」を実施した。

同事業は、災害時に障害のある人と地域が相互に助けあえる関係づくりを目的に、①街なか宿泊体験ワークショップ、②障害のある人と一緒に考える防災とアートのトーク&ダイアログ、③防災・避難をテーマにした共同

WAMからひと言

福祉施設を地域に開くという目的に沿って、障がいのある方々とともに災害対応を考える事業を実施されました。障がいのある方々を単に「支援対象者」として客体化せず、地域の一員として位置づける姿勢を高く評価しています。さらに災害対応と地域をアートの手法を用いて結びつけるという、ユニークな取り組みに挑まれている点についても評価しています。福祉の新たなあり方を提示する取り組みとして、さらなる発展を大いに期待しています。

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

制作、④輪をつなげていくためのメディアづくり事業を行った。

事業を実施した経緯について、武捨代表理事は次のように説明する。

「近年、自然災害が頻発するなかで、障害のある人は家族や支援者以外とのコミュニケーションに不安や戸惑いを感じる人が少なくありません。その一方で、災害時には家族や支援者も被災する可能性があり、必ずしも速やかに支援を受けられるとは限りません。そのため、助成事業では利用者に対して宿泊体験の機会を提供するとともに、障害のある人と地域住民が一緒に防災について考えるワークショップや共同制作などを通じて、地域防災の基盤となる相互理解を育みながら、互いに支えあえる関係づくりの構築を目指しました」（以下、「」内は武捨代表理事の説明）。

障害のある人たちの宿泊体験を実施

「街なか宿泊体験ワークショップ」では、リベルテの4拠点で利用者と支援者の宿泊体験として宿泊練習（令和6年6月21～22日）とイベント本番（10月26～27日）を実施した。宿泊練習には14人（利用者8人、支援者4人、地域住民等2人）、イベント本番には15人（利用者10人、地域住民等5人）が参加した。

「宿泊体験は、拠点ごとにそれぞれの利用者と支援者に加え、日頃から支援に関わるアーティストや支援関係者、地域住民にも参加していただきました。利用者のなかには家族以外と泊まること自体が初めての人が多く、被災時に恐怖で身体が硬直して、避難ができない可能性もあるため、宿泊体験は楽しく、ポジティブな体験をしてもらう機会としました。イベント本番では、翌朝に参加者全員で避難所への経路を確認しながら移動練習を行ったほか、宿泊体験の終了後には利用者やスタッフ、支援関係者による振り返り座談会を開催し、それぞれが感じたことを共有し、フィードバックしあいました」。

アート・防災に関するイベントを開催

さらに、宿泊体験では「障害のある人と一緒に考える防災とアートのトーク＆ダイアログ」を開催した。





▲▼市内４カ所の拠点で生活介護と就労継続支援Ｂ型事業を実施。利用者はアート活動やカフェの運営に携わっている

令和６年度事業

事業概要

助成額 361万円

WAM助成 e-ライブラリー

特定非営利活動法人 リベルテ

アートを介して障害ある人が地域と相互に助け合える関係づくり事業

【事業概要】
障害のある人と地域住民が災害時に相互に助け合える関係を構築することを目的に、障害者と地域住民がともに、宿泊体験や防災に関するワークショップ等を通して交流を図り、地域防災の基盤となる相互理解と信頼関係を育む事業



【実施内容】



- ◆街なか宿泊体験ワークショップ
  リベルテの４拠点で利用者とスタッフ等の宿泊体験を実施
- ◆障害のある人と一緒に考える防災とアートのトーク＆ダイアログ
  演劇的ワークショップや「障害のある人×防災」をテーマにしたトークセッションを実施
- ◆障害のある人とのワークショップで行う防災・避難をテーマにした共同制作
  宮城県にあるNPO法人の視察を行うほか、リベルテの各拠点で防災に関するワークショップを開催

【成果】

- ◆年間２回開催した宿泊体験には、延べ29人（利用者延べ18人、支援者延べ４人、地域住民等延べ７人）が参加した
- ◆宿泊体験と組み合わせて開催した演劇的ワークショップ「リベルテのモロモロ」には延べ30人（利用者25人、地域住民等５人）、トークセッション「生きるための寄り合い」には延べ40人（利用者20人、地域住民等20人）が参加した
- ◆防災に関するワークショップでは、各拠点で防災グッズなどの使用体験、水の濾過装置を用いたカフェ体験、防災食の試食会などを実施し、延べ70人（利用者40人、地域住民等30人）が参加した



- ◆活動を通して利用者と地域住民が交流を深め、相互理解が進むことにつながった。また、防災に関するワークショップには、上田市の防災課担当者に参加してもらい、災害時における地域課題や避難のあり方について共有することができた

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

グ」として、演出家の岩井秀人氏による演劇的ワークショップ「リベルテのモロモロ」や、トークセッション「生きるための寄り合い」などのプログラムをあわせて開催した。

「宿泊練習と組みあわせて開催した演劇的ワークショップは、日常に起こる不条理をともに演じて災害のような困難を乗り越えるヒントを探ることを目的としました。具体的には、利用者から過去に怒りや辛かった体験を発表してもらい、岩井氏が参加者のなかから登場人物を割り振り、同じシチュエーションで再現する参加型プログラムとなります。自らの体験を客観視したり、表現や対話を通して気づきを得ることにつなげています」。

また、イベント本番で開催したトークセッション「生きるための寄り合い」では、宮城県で障害福祉事業を行うNPO法人ポラリスの代表や大学教授、発達障害のケアコンサルタント、アーティスト、哲学者をゲストに招き、「障害のある人×防災」をテーマにそれぞれの専門的な視点から語りあった。

東日本大震災で甚大な被害を受けた経験をもつNPO法人の代表からは、被災時の状況や復興への道のり、現在の活動について紹介されたほか、大学教授からは研究する医療的ケア児の被災時の避難について実践報告を受けたという。

「リベルテのモロモロ」には、延べ30人（利用者25人、地域住民等5人）、「生きるための寄り合い」には延べ40人（利用者20人、地域住民等20人）が参加しており、利用者とともに、多くの地域住民にも参加してもらうことができたという。

被災地の視察や防災ワークショップを実施

「防災・避難をテーマにした共同制作」では、NPO法人ポラリスの視察をはじめ、宮城展や防災ワークショップなどを開催した。

東日本大震災を経験したNPO法人ポラリスの視察には、利用者6人、スタッフ3人、アーティストの計10人が参加した。

「視察では、実際に被災した場所を回りながら、被災時の状況や生活の変化などをお聞きするとともに、地域との関わり方や実践する生涯学習の取り組みについて説明を受けました。利用者にとっても他地域の障害者と交流しながら、防災や共助の大切さを実感する機会となりました」。

視察後は、参加した利用者と現地に同行できなかった利用者の視点で、絵やイラスト、写真、詩などの創作活動を行い、「宮城展」として運営するカフェで制作した作品を展示し、多くの地域住民にみてもらうことができたという。

また、防災ワークショップは、「防災やってみた！」と題し、各拠点で利用者とスタッフが段ボールトイレなどの防災グッズの使用体験や水の濾過装置を用いたカフェ体験、防災食の試食会を開催し、延べ70人（利用者40人、地域住民等30人）が参加した。

「防災食の試食会は、とくに地域住民の関心が高く、多くの参加者が集まりました。上田市の防災課担当者にも参加してもらい、令和6年の能登半島地震と令和元年に発生した東日本台風の被害状況や支援活動を報告していただき、障害のある人への対応について意見交換をすることができました」。

そのほかにも「輪をつなげていくためのメ





▲▼宿泊体験とあわせて実施した演劇的ワークショップ（写真上）とトークセッション（写真下）の様子



年間２回開催した宿泊体験には、利用者や支援者、地域住民など延べ29人が参加した



宿泊体験の翌朝には、参加者が避難所へのルートを確認しながら移動練習を行った

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。



宮城県にあるNPO法人の視察後は、参加した利用者と同行できなかった利用者の視点で創作活動を行い、「宮城展」として作品を展示した

ディアづくり事業」として、助成事業の取り組みをまとめたレポートを作成してWEBメディアを通じて掲載するとともに、新たにメールマガジンを開始して日々の活動を発信する機能を強化した。

メールマガジンの配信により、地域の支援団体や協力者との情報共有や連携を図ることに加え、災害や地域課題に関する情報交換の土台として機能させることを目指しているという。

活動を通して地域住民と顔の見える関係を構築

助成事業の成果としては、障害のある人と地域住民が災害時に相互に助けあえる関係づくりを目指し、拠点での宿泊体験やワークショップなどを実施することにより、利用者が一方的に支援される存在としてではなく、地域住民とともに体験を楽しみながら、「ご近所さん」として顔の見える関係性を構築することができた。



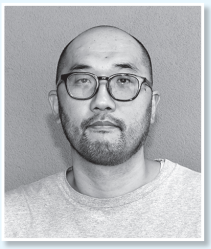
防災ワークショップでは、各拠点で防災食の試食体験（写真）や防災トイレ・グッズなどの使用体験、水の濾過装置を用いたカフェ体験などを実施

「防災ワークショップには多くの地域住民に参加していただき、つながりを深めることができましたし、活動を通じて当法人の活動や障害のある人への理解が進んだことを実感しています。『宮城展』でも多くの人たちに作品をみていただいたことをきっかけにつながりが生まれた人も少なくありません。個人的に印象に残っている出来事としては、助成期間中に運営するカフェの前で地域の高齢者が倒れていたことがあり、利用者が発見して助けたことがありました。普段は手を差し伸べてもらう機会が多い利用者が、人を助ける体験ができたことは、地域と協働して防災を考えていくうえで貴重な経験となりました」。

自然災害が頻発するなか、障害のある人と地域住民が災害時に相互に助けあえる関係性づくりに取り組む同法人の活動が全国に広がることが期待される。

福祉施設を避難所と地域交流の場として活用

特定非営利活動法人リベルテ
代表理事　武捨　和貴 氏



今後の展望としては、福祉施設を活用した地域との関係づくりをさらに発展させたいと考えています。構想している取り組みの一つとして、「路地の開き」の活動で庭づくりを行った拠点に地域住民と協働して井戸を掘り、被災時の避難機能を確保するとともに、コミュニティカフェとして活用することで、日常的に人が集う交流の場をつくりたいと思っています。

さらに、倉庫を改修して図書館をつくり、こどもたちにも遊びに来てもらえる環境をつくることも考えています。多世代の人たちが互いを知り、助けあえる関係を構築することは、利用者にとってもよい影響をもたらすと思います。

◆団体概要

〒386－0023　長野県上田市中央西１丁目９－５
TEL：0268－71－7358
FAX：0268－71－7358
URL：https://npo-liberte.org
設　立：平成25年４月
代表理事：武捨　和貴

社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPOリソースセンター
NPO支援課（助成事業の相談・募集、NPOの融資相談等）
TEL：03-3438-4756　FAX：03-3438-0218（共通）
NPO振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL：03-3438-9942　FAX：03-3438-0218（共通）

NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします！
当機構では寄付金を募集しています
お問合せ先：03-3438-0211（総務部総務課）

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。